

令和2年度

枚方市楠葉排水区下水道浸水被害軽減総合計画

(第2回変更)

枚方市 上下水道局

(様式 1)

1. 対象地区の概要

① 地理的・社会的状況

楠葉排水区は枚方市の最北端に位置し、東部の丘陵地と西部の淀川堤防に囲まれ、排水区中央部はすり鉢状の地形を形成している。近年は、排水区西部の京阪電鉄本線樟葉駅を中心に大規模商業施設の立地や住宅地開発が進み、地区の約 9 割を住居系用途地域が占めている。また、都市機能を支える道路として、排水区中央を通過する府道枚方交野寝屋川線（緊急交通路）が南北に、市道楠葉中央線が東西に整備され、西部には京阪電鉄と並行する市道楠葉中宮線が整備されている。このように、楠葉排水区は、人口・都市機能の集積度が高い地区となっている。

② 浸水被害状況及び事業の必要性

楠葉排水区は、平成 20 年 8 月 6 日の集中豪雨により、床上 15 棟、床下約 20 棟の被害を受けた。また、平成 24 年 8 月 14 日にも時間最大 90mm の集中豪雨により、床上 127 棟、床下約 1,300 棟の被害を受け、さらに平成 25 年 9 月 15 日～16 日にも床上 32 棟、床下約 360 棟の被害を受けた地区である。

このように、当該地区は家屋が集積し、超過降雨時には度々浸水被害が発生する浸水常襲地区であることから、早急な浸水対策が求められる。

③ 該当する地区要件

楠葉排水区は過去 10 年間の延べ床上浸水被害が 127 棟、延べ浸水被害戸数が約 1,300 棟で、床上浸水回数が 3 回発生していることから、地区要件に該当する。

2. 対象降雨と目標設定

① 本計画における対象降雨

- ・ 本計画における対象降雨：108.5 mm/h
- ・ 目標とする理由：平成 24 年 8 月に枚方市で記録した既往最大降雨
108.5mm/h
- ・ ハード整備による目標水準：108.5mm/h（浸水深 20～45 cm未満）

② 目標設定

浸水被害が多発している楠葉中央交差点付近を重点対策地区とし、目標を浸水深 45 cm未満に設定することにより、家屋の床上浸水を防止する。また、緊急交通路においては道路冠水を防止する観点から、機能保全水深 20 cm未満に設定する。

③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について

i) ハード対策

108.5 mm/h の降雨に対し、施設整備により家屋の床上浸水及び緊急交通路の道路冠水を防止する。

ii) ソフト対策及び自助

下水道管理者による土のうステーションの設置や管路、水路、ポンプ等の清掃点検作業、地域住民等による土のう配備や道路雨水ます・側溝の清掃など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害を出来るだけ小さくする。

3. 内水ハザードマップ策定状況

- ・ (平成 27 年 3 月 31 日策定済み) (対象降雨 108.5 mm/h)
- ・ 策定予定 (平成 年 月策定予定)

4. 主な施策

区 分		施 策	
公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水貯留管の整備 貯留量 20,000 m ³
		下水道管理者以外	
	ソフト対策	下水道管理者	・土のうステーション設置 ・管路、水路、ポンプ等の清掃点検作業
		下水道管理者以外	・出前講座等での水害予防の啓発 ・止水板設置費補助金交付の実施
自助	ハード対策		・土のう配備 ・止水板の設置
	ソフト対策		・道路雨水ます・側溝の清掃 ・土のう積み体験訓練

5. 計画期間

平成 28 年度～平成 32 年度 (5 箇年)
平成 28 年度～令和 4 年度 (7 箇年)

6. 整備効果

費用効果：「下水道事業における費用効果分析マニュアル」（平成 28 年 12 月 国土交通省水管理・国土保全局下水道部）に基づき評価期間 50 年として算定

総便益(被害額)：対策実施による被害軽減額

$$B=3,893 \text{ 百万円}$$

総費用(投資額)：建設費、維持管理費及び更新費の総費用

$$C=3,686 \text{ 百万円}$$

費用効果：総便益 B/総費用 C $B/C=1.1 > 1.0$

ソフト対策、自助の整備効果等：

下水道管理者による土のうステーションの設置や管路、水路、ポンプ等の清掃点検作業、地域住民等による土のう配備や道路雨水ます・側溝の清掃など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害を出来るだけ小さくする。

7. 放流先河川との調整状況

特に無し。

8. 下水道管渠内水位等の観測情報の蓄積状況及び今後の観測計画

現在、楠葉排水区では幹線管渠（開水路）である天満川雨水幹線1箇所、利根川雨水幹線1箇所です水位観測を実施している。今後は当該計画に位置付けた雨水貯留管内で水位観測を実施するとともに、重点対策地区内に浸水標尺等を設置し、目視等にて浸水深の観測を実施する。

9. その他

特に無し。

(様式2)

市町村名	枚方市	対象地区名	楠葉排水区	計画対象面積	398ha
(整備概要)					
雨水貯留管 V=20,700m ³ (流入管含む) φ5,000mm L=1,018m					
流入管 φ500～φ2,000mm L=570m					

管渠調査							
管渠の名称	排水区の名称	合・雨の別	主要な管渠内法寸法 (ミリメートル)	延長 (メートル)	概算事業費 (百万円)	工期	備考
雨水管渠	楠葉排水区	雨水	□2,400×2,400～ 開 10,000×3,100	2,320		整備済 700m	天満川雨水幹線 10年確率
雨水管渠	楠葉排水区	雨水	台 3,300/1,900×2,500 ～開 4,800×3,250	1,700		整備済 1,700m	利根川雨水幹線 10年確率
計				4,020		整備済 2,400m	

貯留施設調査							
貯留施設名称	形態	集水面積 (ヘクタール)	内法寸法 (ミリメートル)	延長(管) (メートル)	貯留量 (立法メートル)	概算事業費 (百万円)	工期
雨水貯留管	管	167.93 (内、八幡市 分 49.78)	φ5,000mm	1,018	20,700	3,057	H28～H32 H28～R4
流入管	管		φ500mm～φ2,000mm	570		323	H32 R4
計				1,588	20,700	3,380	

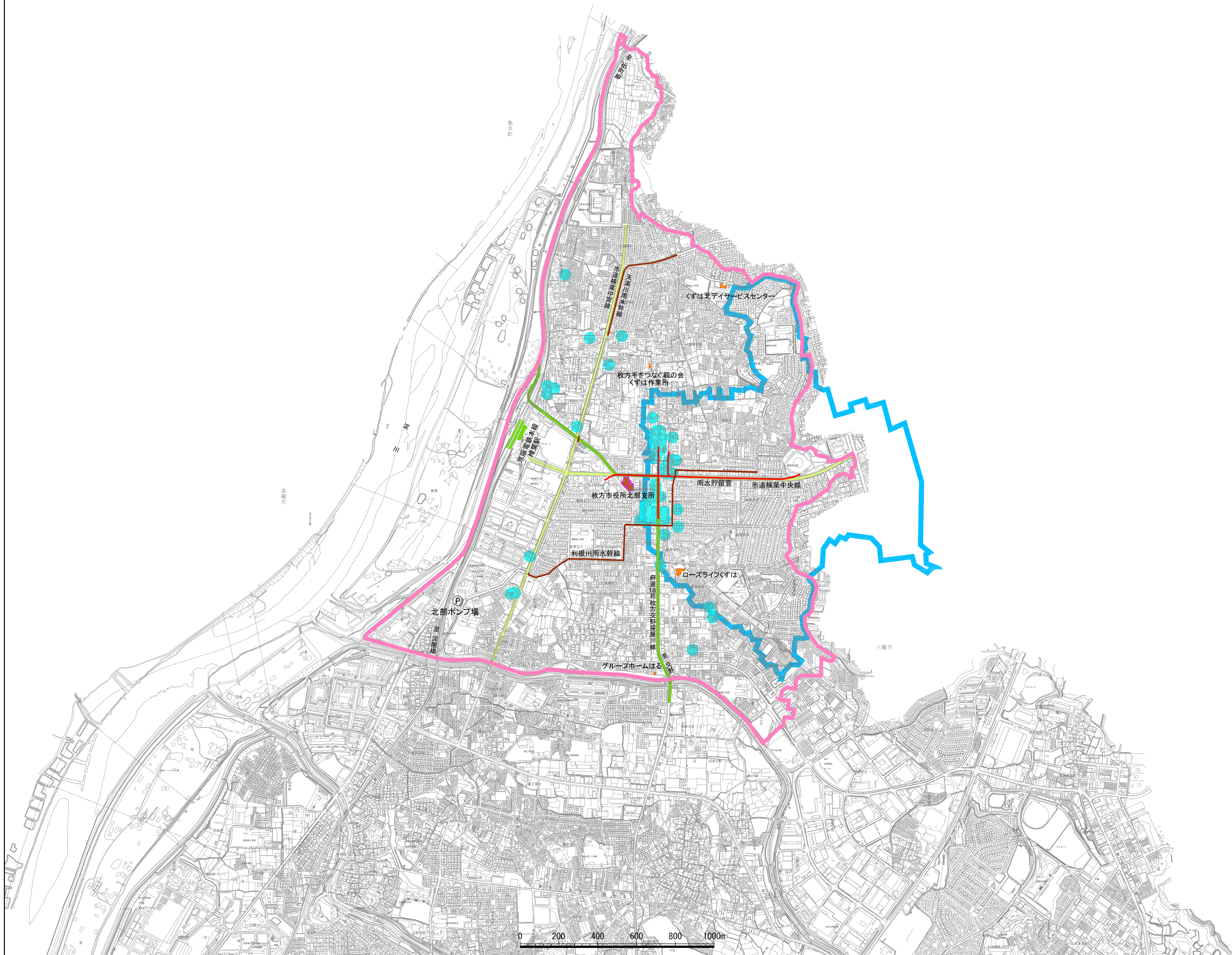
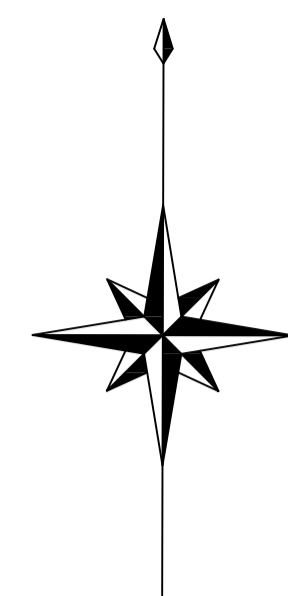
ポンプ施設、降雨・雨水排除情報提供施設調書

施設の名称	施設の位置	敷地面積 (アール)	能力等	概算事業費 (百万円)	工期	備考
北部ポンプ場	枚方市 西船橋二丁目	73	3,093m ³ /分		整備済 2,258m ³ /分	10年確率
計			3,093m ³ /分		整備済 2,258m ³ /分	

年次計画及び年割額

(百万円)

名 称	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 令和元年度	平成 32 年度 令和 2 年度	— 令和 3 年度	— 令和 4 年度	計
雨水貯留管	47	400	600	1,200 —	810 —	— 1,200	— 810	3,057
流入管	—	—	—	—	323 —	—	— 323	323
計	47	400	600	1,200 —	1,133 —	— 1,200	— 1,133	3,380



凡 例		
管渠	施工済	—
	計画期間内施工予定	—
貯留施設	計画期間内 施設	—
	施工予定 集水区域	—
ポンプ施設	施工済	(P)
	計画期間内施工予定	(P)
計画対象区域界		—
地下施設等(地下鉄駅含む)		■
ターミナル駅		■
緊急交通路		■
主要幹線道路		■
防災拠点		■
府庁、市役所		■
要援護者関連施設		■
床上浸水被害箇所		■